



2019年10月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所/(公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区新町1-3-8
 Tel 096-353-6397代)



YMCA学院日本語科 上級クラス ウクライナ出身 バカノバ・アーニャさん

厳しい祖国の現状

「ある日、パンの値段が2倍になりました。少しずつ値上がりしたわけではありません、ある日突然です」。母国ウクライナで起きた通貨危機を語るのは、バカノバ・アーニャさん(27歳)。YMCA学院日本語科の留学生です。その後のハイパーインフレ、クリミア半島をめぐるロシアとの軍事衝突、内戦など、ウクライナの国内事情は聞けば聞くほど厳しいことが分かります。「私は子どもの頃、よく両親にサーカスに連れて行ってもらいました。今の子どもたちはサーカスなんて行ったこともないはず」。

故郷ドニプロは、ウクライナでは大きな都市の一つ。高校を卒業後、アーニャさんは4年間、地元のバレエ学校に通いました。キエフ・バレエに代表されるウクライナのバレエは世界的にも有名です。今でもバレエは若者に大切に受け継がれています。「でも…」アーニャさんの表情が曇りました。「ウクライナでは、バレエで食べていくことはできません。失業率は高く、仮に仕事を得ても賃金が安く、若者は国外に職を求めて出ていきます。ウクライナも家族も愛しているのに、私は祖国での将来像を描くことができないのです。この気持ち、分かりますか？」

留学生に学ぶ、未来の切り拓き方

熊本で見た、将来の道

「バレエを仕事に活かすなら日本がいい」。2013年、バレエ学校を卒業するアーニャさんの背中を押してくれたのは学校の先生でした。仲間と4人で小さなバレエ団を結成。福山、岩国など主に地方都市でバレエを踊り、ウクライナと日本を往復する生活は5年に及びました。興行で熊本を訪れたアーニャさんは、熊本の自然、人々の優しさ、日本文化に魅了されるようになりました。「私は人が多い場所は苦手です。自然豊かな熊本は私にとって最高の場所」。熊本でバレエを踊ったホールの日本人スタッフと次第に言葉を交わすようになり、それは固い友情に変わっていきました。と同時に、アーニャさんの中である心情の変化が芽生え始めました。「熊本で生活したい。ここに私の将来の選択肢があるかもしれない」。

バレエの仕事に区切りをつけ、熊本YMCAの短期日本語コースを受講したことが転機となり、本格的に日本語を学びたいと思うように。目標を日本の学校への進学、そして就職と決めました。



バレエ学校時代のアーニャさん

日本語学校の先生・友人は“家族”

ところが、目標を定めたその矢先、大きな壁が立ちちはだかりました。「留学ビザ」の取得です。法律では、外国人が長期で日本の学校に通うには留学ビザが必要、と定められています。申請だけでも身元保証や日本での生活資金・学費の保証など国が定める様々な手続きが必要です。申請後も厳しい審査を通らなければ、留学ビザは取得できません。「私がずっと興行ビザでバレエの仕事をしていたのが関係したのかもしれませんが。留学ビザの取得が本当は就労目的なのではないか、と思われたのか、審査は厳しいものでした」。

日本での長期留学という夢を諦めかけた頃、ビザ取得の朗報がウクライナのアーニャさんのもとに届きました。アーニャさんの目は輝きます。「私の将来に光が差した気がして思わず叫びました、やったー!って。私一人でビザを取得することは到底できませんでした。日本人の友人たちのサポートがあったからこそなんです」。

アーニャさんは残り半年で日本語学校を卒業します。9月に行われた日本語科スピーチ大会では見事優勝(4面に関連記事)。日本での進学を目指し、今は台湾、タイ、ベトナムからのクラスメイトとともに日本語能力検定試験に向けて勉強に励む日々です。「私にとって日本語学校の先生や友人は“家族”のような存在。いろんな国の友だちができました。いつか私が学んだことを祖国ウクライナの人たちに伝えたい。まだまだ知らない世界が目の前に広がっていますから」。愛する家族と離れていても、祖国を想い、たくましく未来を切り拓き一歩一歩力強く前に進むアーニャさん。私たちが彼女の生き方から学ぶことも少なくないはずですよ。

Pickup

子どもたちも大活躍!
 みなみセンター
 サザンフェスタ



約3,000名が来場!
 ながみね祭

乗馬に挑戦
 被災児の心のケア
 あそぼうキャンプ



Information 行こう 見よう 深めよう

10月・11月

みんなのチカラを集めて 世界を変えよう! YMCA祭

楽しむ
×
チャリティ

今年も各センターでお祭りを開催します。地域の皆さん、どなたでも来場可能です。益金は、災害復興支援、国際協力活動、地域活動等のために用います。

バザー出店品、抽選会賞品のご寄贈をお願いしています。また、当日ボランティアも募集します。詳細は各センターにお問合せください。



むさしセンター むさしフェスタ

むさしセンター開設25年。「25(にこにこ)むさしフェスタ!!」マルシェも同時開催。ステージ発表やのみの市もご期待ください。

回 10月13日(日) 10:30~14:00 場 むさしセンター(合志市幾久富1866-1339) 図 Tel 096-248-6334

東部センター YMCA帯山まつり

毎年、国際色豊かな食バザーやステージ発表が好評です。初登場のメニューも多数あり。今、流行りのタピオカも!

回 10月27日(日) 10:00~14:30 場 東部センター(熊本市中央区帯山2-1-11) 図 Tel 096-382-6661

中央センター 前進祭

広い体育館をメイン会場に、学生や子どもたちによるステージ発表、バザーを実施します。家族揃ってお楽しみください。

回 11月10日(日) 10:30~15:00 場 中央センター(熊本市中央区新町1-3-8) 図 Tel 096-353-6391

水前寺幼稚園 わいわい秋まつり

親子で楽しめるお祭りです。子ども向けゲームや食バザーも開催!地域の皆さんもぜひお越しください。

回 11月16日(土) 11:00~13:00 場 YMCA水前寺幼稚園(熊本市中央区出水3-12-1) 図 Tel 096-362-4141



10月26日・27日

子どもは遊んで 大人はのんびり 阿蘇ファミリーキャンプ

キャンプ
×
家族

秋の自然は遊びがいっぱい。日常から離れて世界最大級のカルデラや広大な草原、豊かな湧水を有する阿蘇を訪れてみませんか?

YMCA阿蘇キャンプは豊かな自然の中にある宿泊施設です。大人はテラスでのんびり過ごすもよし。もちろん子どもと一緒に遊ぶのもよし。経験豊富なスタッフが皆さんをお待ちしています。

回 10月26日(土) 11時集合~27日(日) 14時解散(1泊2日)

集合・解散・宿泊YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰358)

因 秋のおもしろ自然遊び、アーチェリー、星空と焚火の集いなど 図 ご家族、お一人様、どなたでも参加できます。

費 中学生以上 9,200円/小学生 7,200円/未就学児2,000円

宿泊費、食費(夕・朝・昼)、プログラム費、保険料、消費税込

定 15名程度 回 10月22日(火)までにQRコードからお申込みください。 図 YMCA阿蘇キャンプ Tel 0967-35-0124



12月4日 Wednesday

市民クリスマス2019 于波トリオチャリティーコンサート

音楽
×
チャリティ

今年の市民クリスマスは、チェリストの于波さん、ヴァイオリニストの工藤真菜さん、ピアニストの葉山由美さんを迎えてのチャリティーコンサートです。益金は熊本地震復興支援活動などのための支援金として用いられます。ご家族、ご友人お誘いあわせの上、お越しください。

回 12月4日(水) 18:30開場 19:00開演

場 くまもと森都心プラザホール

費 チケット(全席自由)大人 2,000円/学生以下 1,000円 ※小学生以下無料

出演者

チェロ/于波さん

中国ハルビン市出身。北京音楽学院を首席で卒業し、若手トッププレイヤーによるソリストで首席ソリストとして活躍。1987年の来日後、九州を中心にリサイタルや、室内楽等、様々なコンサートで活動。17枚のCDをリリース。

ヴァイオリン/工藤真菜さん

東京芸術大学附属音楽高校、同大学卒業。現在、東京と福岡を拠点にソロ、室内楽、オーケストラ、後進の指導、またコンサート企画やイベントへの出演など広く活動している。

ピアノ/葉山由美さん

音楽グループCONTINUE主宰。1997年より毎年、福岡市にてチャリティーコンサートを主催。ピナトリオ「ALTEZZA」を結成し、九州各地で演奏活動に取り組む他、室内楽を中心に幅広いプレイヤーと共演。

回 市民クリスマス2019実行委員会 場 市民クリスマス2019事務局 YMCAみなみセンター(熊本市南区田迎) Tel 096-378-9370

切 チケット取扱い熊本YMCA各施設、熊本YWCA(10月末販売開始)



切り取り線

中央センター 前進祭
50ポジ

※切り取って前進祭当日(11月10日)にお持ちいただくと、50ポジ券として食バザーなどにご利用いただけます(お一人につき1枚限り)。

回日時 場会場 因内容 費参加費 定員 図参加条件 持持ち物
対対象 催主催 締締切 申申込 問問合せ 他その他

R | E | P | O | R | T

[8月19日⇒ 9月9日]

国際 今こそユースの交流を **韓国大邱を訪問**

第36回を迎えた日韓視覚障がい青少年交流は、熊本県立盲学校の生徒やユースなど計15名が韓国大邱を訪問する予定でしたが、日韓情勢の悪化により、熊本・大邱の直行便が運休するなど、実施が危ぶまれました。しかし、「こんな時だからこそ交流をすべき」との想いで、YMCA学院の学生などユース3名を含む6名を大邱に派遣。「日韓青少年交流」と名前を変えて、8月19日(月)から21日(水)の2泊3日で実現することができました。

現地では、大邱YMCAの日本語スクールの生徒10

名に迎えられ、内容の濃い交流ができました。「ユース同士の交流を発展させるために」というテーマで行った意見交換では、韓国や日本に興味を持ったきっかけをお互いに話し出すと「わかる!わかる!」とすぐに打ち解けた様子。互いの文化にふれることの大切さについて話し合われました。参加したユースは「大邱での交流中、政治的な問題を考えることはなかった。ただ、お互いのことを知りたいと思った」と感想を述べました。

職員 牛嶋加佐喜



子ども 児童養護施設の子どもたちのために

8月22日(木)、児童養護施設で暮らす中高生のための企業説明会「おしごとカフェ」をYMCAフィランソロピー協会主催で初めて開催。5つの児童養護施設の生徒・職員が参加しました。

児童養護施設の子どもたちが、社会人となるイメージも十分でないままに退所期限である18歳を迎える実情を受け、子どもたちの職業観の醸成をサポートしようと企画。18名の生徒たちが8社から会社案内や商品を用いた説明を受けました。初めは緊張した面持ちだった生徒たちも、ドリンクを飲

みながらの交流タイムでは、学校生活などについて企業参加者と笑顔で会話する姿が見られました。

最後に、熊本放送の松原庸児さんから「いろんな人と出会って、話をしてください。熊本には働き甲斐のある会社がたくさんあります。将来は、ぜひ一緒に地域を盛り上げていきましょう」とエールが送られ、生徒からは「どうして今の会社を選んだかといった話も聞いて参考になった」「この体験は就職を考える時に役立つと思うので、後輩にも伝えたい」という声が聞かれました。

職員 原美幸

おしごとカフェを開催

国際 これまでの支援に感謝 **東ティモールYMCAから来熊**

2012年から熊本YMCAが支援している東ティモールYMCAの総主事アントニオ・ダ・シルバさんが9月6日(金)～9日(月)の日程で来熊。これまでの支援活動への感謝を表し、活動を支えるボランティア会員への報告と交流会を行った他、子どもたちのプログラム見学と運営研修や、今後の支援活動に関する協議を行いました。

熊本YMCAでは、ながみねファミリーセンターとひがしワイズメンズクラブを中心に、現地のサッカー教室や幼稚園の子どもたち、そして日本語を学

ぶ若者への支援を続けてきました。

アントニオさんは今回の来熊について「熊本の皆さんとの友情が現地の子どもたちの力となります。この訪問で得た多くの学びと出会いを、これからは活かしていきたいと思います」と話しました。

国民の平均年齢は19歳、半数が1日2ドル以下で生活しており、これからの開発や教育、雇用の課題が大きい東ティモール。熊本YMCAは特に教育と人道支援という立場から今後も寄り添った活動を行っていきます。

職員 中村賢次郎



岡 総主事の タラントン Vol.63

共に歩む

暑い夏が終わり、朝夕のひんやりした空気の心地よさを感じるようになりました。しかし、この夏は思いがけない地域で災害が発生し、自然の猛威に人間の創りだすものが壊れ、消えていく姿を見ることになりました。現在も困難な状況におられる方々を想うと、もどかしさを感じます。

そのような中、熊本地震によって住む場所を失った方々が暮らす仮設住宅を集約することが発表されました。新聞発表によりますと、県下16市町村で110団地、4,303戸が整備されていたものが、8月末の時点の入居戸数は1,225戸となり、空室が7割近くとなったとのこと。ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯などでは、孤立が懸念され、防犯の面でも課題が出ています。

県内最多の仮設住宅がある益城町でも、来年6月から全仮設住宅が木山仮設団地へ集約されます。熊本YMCAは地域支え合いセンターの運営を通して、木山仮設団地の住民の皆さんに寄り添う活動を続けてきました。3年以上もそれぞれの仮設団地での暮らしを続けてき

た被災者にとって、居住環境の変化が新たな負担となり、精神的にも肉体的にも疲弊してしまうことが心配されます。特に孤立を防ぐために、コミュニティの再構築に力を注ぐことが重要になってくるでしょう。

熊本YMCAは、仮設団地の住民の支援に加え、今年も被災児を対象としたキャンプを実施したり、阿蘇地域にボランティアを派遣するなどの活動を続けています。先が見えない中も、支援を担っていかなければならない責任の重さを感じています。

私たちYMCAは、強い使命感を持ち、被災された方々との歩みを継続していきます。その活動には地域の皆さんの協力が欠かせません。引き続き支援をよろしく願います。

t a l a n t o n

YMCA学院日本語科スピーチ大会

9月13日(金)、YMCA学院日本語科に通う留学生たちのスピーチ大会が行われ、予選を突破した11名がそれぞれの夢や、日本で経験したことについて発表しました。2名のスピーチ内容を抜粋してご紹介します。上位入賞者のテーマや順位はWebサイトでご覧いただけます。



上級クラス
バカノバアニアさん
(ウクライナ)

日本に来て

留学生の皆さんは、日本にどんなイメージを持っていましたか?来日する前、私は日本はビルばかりで、自然がない国だと思っていました。でも実際は、木や花などがたくさんあって、日本人は自然を大事にしています。

例えば、日本では自転車を使う人が多くてびっくりしました。私も、今は毎日自転車に乗っています。自転車は環境だけでなく、健康にもいいです。でもウクライナでは自転車に乗る人は少ないです。それは「あ、田舎から来た人だ。オシャレじゃないね」と笑われるからです。以前は私もそう思っていたのですが、日本に来て、考え方が変わりました。

他にも日本でびっくりしたことがあります。初めて温泉に行った時、「はっ?裸で?うそでしょ?」と、とても恥ずかしくなりました。人前で裸になることに抵抗のある外国人は多いと思います。納豆も初めて遭遇した時、びっくりしました。ネバネバするし、臭いし、いくら健康にいいと言われても、無理でした。納豆を食べるくらいなら、病気になるのを選びたいくらいです。

このように、それぞれの国には、面白いことや驚くことがあることに気づきました。これからも、もっともっと日本のことを知りたいと思っています。



初級クラス
ジェレミー シャミオ
メトラルさん(フランス)

私の一番好きな所

宮島は、日本で一番好きな所です。3回行ったことがあります。

宮島は広島市の近くにある小さな島です。2012年に初めて行きました。船の上から見て、とてもきれいな島だと思いました。島についたら、いろいろなおもしろいことを経験しました。村の中にいる鹿が優しかったので、私はすぐに嬉しくなりました。それからきれいな海にある厳島神社を訪れたり、弥山に登ったり、水族館へ魚を見に行ったりしました。

宮島は食べ物がとても美味しいことで有名です。私は大きい牡蠣があまり好きではありませんが、もみじ饅頭は大好きです。宮島へ行ったら、毎日10個以上食べます。でも、それが宮島を好きな理由ではありません。私にとって、さらに特別なことがあります。

宮島は夜になったら、人がとても少なくなって、海岸で光っている灯籠がたくさんあって、静かになります。そして、自然がたくさんあって、星がはっきり見えて、音も全然聞こえません。島は時間が止まったかのようです。

村をあちこちゆっくり散歩してから、旅館の大きなお風呂に入ることは世界で一番気持ちのいいことです。だから、宮島は何回も行きたい特別な所です。

Snap

読者の皆さんから
寄せられた写真を
紹介します。



「見に来てね!」
投稿者:マチコ(熊本
ジェーンズワイズメン
ズクラブ)
@YMCA中央センター
中央、みなみ、東部センター
にワイズメンズクラブ紹介
コーナーができました。



「阿蘇」
投稿者:さま
@ながみねファミ
リーセンター
ながみね祭にくまモン
が来たー!!

写真募集中

YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。採用された方には、オリジナルグッズをプレゼント!

応募はこちら▼



この言葉は、そんなぶどうのイメージから、真っ先に「房」や「実」を連想させ、私たちに結びつき、つながりや連帯・団結を思い起こさせるでしょう。しかし、誤解してはいけないのは、このイエスキリストの言葉が伝えるのは、房や実ではないということです。

イエスキリスト自身ぶどうの木で、そして、その言葉を聞く者たちをぶどうの枝にたとえられたのです。そして、その前提には、ぶどうの木を植えたのが神さまであり、農夫として手入れされているということ。つながるべきものがイエスキリストであり、神さまということ。私たちが何につながっているかという事です。あるいは、何を中心にして生きるか、誰に頼って生きるかを示しているでしょう。

目の前が暗くても、先が見通せなくても、失望や挫折を経験しても、人を信じていることができない時にも、独りぼっちに感じる時でも、何をやっても駄目だと感じる時でも、孤独と空しさの中にいる時でも、毎日の生活の中で、どうすればいいのかわからない時、人間関係に疲れてしまった時、真っ先に、私たちは、愛と命の根源である神さまにつながって生きるのです。

何につながって生きるか

全体が一つになることを美德にする日本人は、たとえそれが、間違ったことであっても、「足並みをそろえること」や「二つになる」ことを強調します。近所付き合いや人間関係で、話し合いの時にも、みんなと異なる意見や行動をとりにくいものです。

わたしと聖句

ヨハネによる福音書15章5節



日本福音ルーテル熊本教会
杉本洋一

発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人/岡成也 編集人/因幡亮治
定価60円 購読料は会費を含む
www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。